



令和2年11月17日
奈良市子ども政策課
社会福祉法人郡山双葉会

平素は本市の教育・保育行政にご理解ご協力いただき、ありがとうございます。

鶴舞こども園については、平成27年3月末に民間移管することとして方針公表し、保護者や地域の方々、奈良市との間で様々な議論を行い、途中移管時期等の変更がありながらも、今後鶴舞こども園に通う子どもたちが公立園であった時と変わることなく将来にわたって元気に成長できることを目指して取組を進め、今年度より「公私連携幼保連携型認定こども園 鶴舞やまとこども園」として新たな一歩を歩み始めました。

移管先法人選定に係る選定委員会及び法人選定後の三者協議会等において、保護者代表や地域の方々にも参加いただき、ご意見をいただきながらこれまで鶴舞こども園が実施してきた教育・保育をしっかりと引き継ぎ、子どもたちが自ら考えて遊びを作り出していけるような環境なども大切にいただくことを目指して協議を継続してまいりました。

今年度実施する三者協議会では、園庭整備の内容について協議を進めますが、これまで保護者や地域の方々と共に築き上げてきた鶴舞こども園の教育・保育を継承するとともに、より発展させることを目指していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この度、9月の保護者懇談会において配布された法人の園庭整備案提示を受けて、育友会より実施された保護者アンケートについて、様々なご意見を頂きましたので、令和2年10月2日に第二回目の三者協議会を開催し、改めて法人のねらいや考え方を説明し、その内容をまとめましたので皆様にお知らせいたします。

【三者協議会概要】

日時：令和2年10月2日（金）9時10分～12時10分

場所：鶴舞やまとこども園リズム室

内容：園庭整備計画案についてのアンケート結果について

1 三者協議会の内容について

◇園庭整備計画案についてのアンケート結果について

【奈良市より】

- ・当初園庭整備案については6月末頃には示される予定となっていました。が、コロナウイルスの影響などから、7月末の夏休み中の予定となりました。
- ・園庭整備案の提示が夏休み中となったことや図面案の配布のみでは法人の意図などが伝わらないことから、夏休み明けの9月の保護者懇談会において、法人から園庭整備に関する説明を加えて配布することになりました。
- ・育友会より実施されたアンケートの中では、期待している意見もある一方で厳しいご意見もいただき、この園庭整備においても公立で大切にしてきたことをしっかりと引き継ぎ、さらに発展させていく事が求められており、保護者の皆さまもそういった思いを引き継いでご意見をいただければと思います。

- 1
- ・築山を人工芝にする理由を教えてください。
 - ・人工芝であっても土であってもケガすることには変わりはないと思います。
 - ・人工芝は滑りやすくないですか。
 - ・人工芝の良い点もあると思いますが、安全性や管理面を重視して遊びが限定されそうです。
 - ・人工芝でも劣化による汚れや変色、剥げてきたり損傷すると思います。
 - ・築山が低く、4,5歳児には物足りなくないでしょうか。

◇遊び、ねらいについて

- 法人： ▶ アンケートの中で、以前の土の築山の重要性や、高低差のある園庭の在り方、子どもたちの主体性・感性をより高める遊具の必要性、そして以前の鶴舞こども園が大事にしてきた素晴らしさなどのご意見を頂きましたが、これらの点は、法人としても本当に同じように大切にしていきたい部分であると感じています。人工芝の築山を提案していますが、決してこれらの部分を大切にしていけないわけではなく、しっかりとこれからも引き継いでいきたいと考えております。
- それらを踏まえた上で、土の築山と人工芝の築山の両方を体験した保育士の方々の意見も聞きながら、どちらにおいても変わらない体験・遊びができることや、新たに0～2歳児の受入れが始まりいろんな園児が育つ環境となること、遊具の安全性や維持管理といった面などを総合的に考慮して、現状人工芝の築山を選択させて頂きました。

◇現場の先生方の意見

- 法人： ▶ 我々も土の築山での保育経験があり、思い入れもある一方で、人工芝の築山を経験したことがないので、他の先生とともに実際に人工芝の築山が設置されている園へ見学に行かせて頂きました。その中では、思っていた以上に高さであったり傾斜にバリエーションがあり、子どもが遊びの中で運動能力・体幹を鍛えることができ、水を流したりシートを敷いて滑ったり、土の築山と変わらないたくさんの経験や遊びが展開できると感じています。また、最近の人工芝の質も向上しており、実際に触ったりハイハイしてみたり転がったりしても天然の芝生のような気持ち良さも感じられました。そして、摩擦がなく滑りやすいのではといったご意見もありましたが、子どもたちが靴や素足で踏ん張ったりすることにもしっかり対応できますし、子どもたちをこの中で思いっきり遊ばせてあげたいな、駆け上がらせてあげたいなと感じました。

◇新たに乳児の受入れが始まることについて

- 法人： ▶ 今後は、新たに0～2歳児の受入れも始まり、乳児・幼児両方の子どもたちが遊べるように考えて園庭を設計する必要があります。これについては鶴舞こども園のときは異なる部分であり、移管先法人としてただ単に引き継ぐだけでなく、より進化したものを届けたいと思っており、異年齢児の交流や経験を通じて園児たちの多様な成長が得られるといったメリットがあることから、安全な人工芝を検討し、乳児の子どもたちと一緒に築山で遊ぶ機会を作りたいと考えています。

◇温暖化への対策について

- 法人： ▶ 温暖化により近年の夏場の気候は異常な暑さが続いており、そのような中でも子ども達が健やかに過ごし、そして子ども達の生命を安全に守るため、照り返しの防止といった面から園庭全体を土にするのではなく一部緑化するという考え方も必要であり、築山の部分について緑化することを選択しています。この場合、天然芝という選択もありますが、芽を植えて根付くまではたくさんの時間を子どもに待ってもらったり、遊びの中で剥がれた部分を修復する間もまた子どもが遊べなくなるといった問題もあるため、現在のところ人工芝を選択させて頂いています。

◇維持管理について

- 法人： ▶ 土の場合、子どもたちが遊んだり雨風によってやはり土が流れていき、例えば下地のコンクリート部分がむき出しになったり、高さがどんどん低くなったりするので、こまめなメンテナンスとして土を入れるなどの対応が必要になります。

◇高さについて

- 法人： ▶ 築山の高さについては、現状の案で1.3メートルと提案しましたが、卒園アルバム等の資料を確認させて頂いて、できる限り以前あった高さと同じくらいのもを設置したいと考えております。なお、市内の公立小学校で高さが2メートル以上ある築山が設置されているところもありますが、あまり高すぎるのもかえってこけたときに服が破れたり、ケガをしたりすることもありますので、そういった面も考慮しながら、最適な高さを考えたいと思います。
- また、人工芝はこけたとしても怪我はしにくいと思いますが、怪我をすることもひとつの経験であることから、怪我をしにくいことに主体を置いているわけではなく、登る動作や遊びの中でしっかりと体幹や運動能力をつけていきたいと思っております。

◇園庭整備全般について

- 法人： ▶ 園庭というものは遊びながら作りあげていくものだと思うので、先生たちの中で土の築山が欲しいとなったら、子どもたちと考えながら作っていくことも可能であり、今100パーセント全て作るのではなくて、小さな子ども達も入ってくる中でどこに適正に配置するかなども変わるため、今は最低限保障したいと思うものを提案しています。
- 例えば、4月、5月にこのアンケートに記載されたものすべてが盛り込まれたものを完成させることは難しく、園庭を作っていく楽しみや先生方の計画を崩してしまうことは避けたいと思っています。また、今回頂いたアンケートについて、改めて法人としての考え方を説明させて頂きました。それに対して改めてご意見をいただき、検討していきたいと考えています。

- 奈良市： ▶ 市として、一旦客観的に以前の築山について調べる必要があると考え、図面や写真等の資料を確認したり、新たに土の築山を整備した公立園へ行くなど、調査をさせて頂きましたが、整備当初の図面で築山は1.3メートルと設計され、タイヤなども敷き詰められている設計となっているのを確認しております。
- しかし、写真では高さはそれ以上に見えるように見え、長い年月の中で雨風で土が削られた部分を園職員が土を盛ってメンテナンスを行い、それらが積み重なって一定の高さができたのではないかと考えています。ただし、2メートル以上あったか否かは、正確に把握することはできませんでした。そして、高さというよりも、土が流れていき、横に広がっているため傾斜部分の距離が長い築山であると見受けられました。
- また、他の公立園で新たに整備された土の築山の近況を確認すると、1年半くらいの期間が経過していますが、高さも当初あった高さから数十センチ低くなっていたり、土管部分のコンクリート舗装がむき出しになっていて危険になっていたりと、維持管理が難しいといった課題も見えました。

- 保育総務課： ▶ 公立においては費用面から人工芝の築山といった選択肢はなく、土の築山がほとんどです。そこに市販の人工芝を敷いたりして、その上から水を流して滑って遊んだりといった遊びを展開することもあります。
- また、築山がない園もあり、経験として自分たち園職員で土を盛って築山を作ったこともありましたが、使い始めると土が流れてしまうので、流れた土を上げてということを繰り返しました。特に土管の周りの部分が頻繁に削れてきて危ないので、メンテナンスの手間がかかるといったことは実際にあると思っております。そして、天然芝についても、植え付けては子どもたちに待ってもらい、しっかりと根がつかずに失敗するといったこともありました。

- 奈良市： ▶ メンテナンスについて、鶴舞やまこども園は、今後0～2歳児の受入れが始まり、これまで以上に多くの児童を受入れることとなります。その際に、遊具のメンテナンスも大切な事ではありますが、それらにかかる時間を、より子どもたちに向き合うことに充てたいといった思いもあって、土よりも比較的メンテナンスがしやすい人工芝を検討しているのも理由のひとつではないかと考えます。

- 奈良市： ▶ 移管先法人として、これまでの鶴舞こども園が大事にしてきたものを守りつつ、より発展させていくために色々と検討されているのだと存じておりますが、以前の説明会資料においても、メンテナンスや安心安全といった面が優先的に説明されている印象があったことは否めず、今後はそのような部分についてより密に連携を取り、法人の考えをしっかりと保護者へ伝えられるようにしたいと考えております。

2 ブランコ等の新しい遊具の希望について

法人： ブランコ等の揺れを体感できるような遊具はとても大切だと思いますが、危険性を考慮して広くスペースをとる必要があり、子ども達が自由に遊ぶ空間が取れなくなるといった課題があります。また、設置できたとしても数に限りがあり、遊ぶ目的に限られる遊具よりも、遊びの幅が広がる子ども達の主体性を養う遊具を設置したいという思いからも、同じ要素を体験できる遊びや、他の物などで体感できるように考えていきたいと思っています。

3 0～2歳児への配慮だけでなく、3～5歳児への配慮もお願いします。

法人： 本来全ての子ども達の事を考えて整備案を検討する必要がありますが、今回の園庭案については、4、5歳を中心として検討したものになります。更に、遊びの中で異年齢児の関わりを通して成長してもらいたいという思いから、小さい子ども達が遊べるものを加えて行きたいと思っています。

4 ジャングラミングの設置自体が危険なのではないでしょうか。

法人： ジャングラミングは、滑り台や雲梯、登り棒の要素も含まれていて、どこから登っても違う登り方が出来ます。様々な登り方で自分の身を守り、考え、スリルも感じながら、木の上で遊んでいるような遊びを体感してほしいです。そういった危険性はありますが、みんながそれを感じ、楽しみながら、自分たちで考えて遊べることから、思考力や体幹をしっかりと身につけることができる遊具になっています。遊具の高さは2m60cmになりますが、登り棒も同等の高さがあることから幼児がしっかりと遊ぶことができます。

5 0～2歳児の小さな子ども達が遊べる遊具なども設置していただきたい。

法人： 中庭が完成すれば、乳児優先の園庭となる予定ですが、乳児用の園庭にも小さいジャングラミングを配置したいと思っています。中庭が完成するまでは園庭ですべての園児が遊ぶ事になりますが、異年齢児の関わりは大切なので、一緒に遊ぶ時間や幼児が思いっきり遊ぶ時間など、保育の狙いによって計画的に検討していきたいと思っています。

6 鶴舞こども園の物で引き継ぐものはありますか。

法人： 現在使用しているものは基本的には継続して使用する予定です。

7 プールについて、大きさや深さはどのようなものになるのでしょうか。

法人： プールは組立式のプールを設置し、テント等で日除けをつくったりする予定としています。使用しない時期は別の場所に収納することができ、深さについても子ども達の年齢に応じて調整していきたいと思っています。

奈良市： 公立園における統合再編に伴うこども園化においても、新たに施設整備を実施する場合は、使用しない際に場所を有効活用出来ることやメンテナンスの観点からも、組立式のプールを設置しています。

8 夏の日焼け対策など、子ども達が日陰や木陰で休憩できるような場所を数ヶ所設けていただきたいです。

法人： 砂場やプールには、テントや木を配置するなど、日陰となるように考えていきたいと思っています。

奈良市： ベンチや椅子などの休憩場所については、完成してから子どもの遊びの動線なども見ながら設置していきたいと思っています。

9 手洗い場や足洗い場はどこに設置されるのでしょうか。

法人： プールの横と乳児の園庭に設置予定となりますが、最終的には園舎が完成してから調整したいと思います。また、水が必要となる砂場や畑の近くには散水栓を立ち上げる予定をしています。

10 今ある大きな木はどれぐらい残すことになるのでしょうか。

法人： これから園庭となる周囲のフェンス沿いの木については、危険のないように剪定する予定としていますが、大きな木については基本的に残していく予定です。

11 小さな池があるとメダカなどが自然に近い状態で飼育できるのではないのでしょうか。

法人： 将来的にはビオトープも検討したいと考えていますが、それまでにしっかりと環境を整える必要があると思っています。

奈良市： 公立園における統合再編に伴うこども園化においても、元々の池となっている箇所については、もっと他に有効活用できるスペースとして環境改善をする傾向があります。

12 畑がどうしても少ない様に感じます。
自然と触れ合ったり育てることをもっと子ども達に感じさせてあげてほしいです。

法人： 花壇なども今あるものを踏まえて検討し、今後お示ししたいと思っていますが、畑や花壇などもしっかりと確保する予定です。また、植栽計画についても、毎年栽培している玉ねぎや野菜、芋などは継続的に行っていきたいと考えており、地域の方々にも相談させて頂きながら検討しているところです。

13 駐輪場に屋根をつけて頂きたいです。

法人： 設置予定の駐輪場には、屋根を設置する予定です。

14 駐車場や駐輪場は全員が止められるだけの敷地が確保されていますか。

法人： 奈良県内どこの園も同じですが、駐車場や駐輪場は全員が同時に止められるだけの整備はできません。
しかし、登降園の時間も違う事から、定員数に見合った必要数は確保できています。自転車は園庭や園の南側通路にも停める事ができるため、使用開始してから臨機応変に対応していきたいと思っています。

15 駐車場の職員スペースと保護者スペースがそれぞれ何台ずつ確保されていますか。

法人： 全体で約24,5台が駐車可能となっています。職員用のスペースは園庭のフェンス側としていますが、混雑して地域の方々に迷惑がかかるような事があれば、他の場所を借りるなども検討したいと思っています。保護者の皆さまにおいても、スムーズに登降園できるようにご協力をお願いします。

16 徒歩や自転車での通園者も南側の門を通過して通園する事ができますか。

法人： 南側のスロープには、歩行者などが通れる部分を作る事になりますので、南側と東側の二箇所の門からの通園が可能となります。

17 新園舎への移行の時から駐車場や駐輪場も変更となるのでしょうか。

法人： 駐車場については、新園舎完成後に現在の園舎解体が始まることから、駐車場整備が終了するまでは現在のテニスコートに借用している駐車場をご利用いただく事になります。また、駐輪場については場所が変わると思いますが、現在検討中となります。

18 園舎の出入口について、子どもが勝手に出入りできないような対策はされていますか。

法人： 園舎の出入口は自動ドアになります。解放のためのボタンが上部につけられており、普通であれば届かないと思いますが、5歳児などが走ってジャンプすれば届く可能性は考えられますので、園としても注意していきたいと思っています。

19 今なら園庭から教室に出入りする子の姿は確認出来ていますが、新園舎になると園庭から園舎内に移動する子など、先生方の目の行き届かない部分があると思いますが、大丈夫でしょうか。

法人： 今でも誰が保育室に残っているかなど、先生同士が連絡を取り合いながら行っているので、新園舎移行後についても問題はありません。

20 園舎の裏はどのような活用が予定されていますか。

法人： 中庭は乳児専用というよりは、異年齢児交流も行っていきたいと思っていますので、乳児優先の園庭となります。

21 園庭が使えない期間が長いので、子ども達が遊べる場所を優先して工事を進めてほしいです。また、新しい園庭ではいつ頃から遊べるのでしょうか。

法人： 当初は小学校の校庭をお借りして様々な遊びを提供していきたいと考えていましたが、新型コロナウイルス感染症のこともあり、実施出来ませんでした。しかし、現在は改めて小学校とも空き時間の借用についても協議させていただいたり、近隣の公園まで出向くといったことも検討させていただいています。また、工事も特に大きな遅れ等は発生していないことから、4月末頃には工事が完了する予定となっています。

22 園庭に鶴舞こども園の個性（アピールポイント）を感じられる部分が欲しいです。

法人： 花が咲いていたり、虫がよってくる様な場所など、しっかりと自然が残るような園庭としながら、木々なども残していきたいと考えています。築山についても体幹を伸ばしたり友達と一緒に遊ぶことで思考力もついてくるため、今までやってきたものをしっかりと残り、発展させることで子ども達がかっこよく笑顔になって遊べる園庭にしていきたいと思っています。また、園庭をこれから作り上げていくという部分では、これから年数が経つにつれて鶴舞独自の個性が出てくるものと思っています。

23 新園庭説明会に、奈良市が不参加だったのはどうしてでしょうか。

奈良市： 市としては、説明会という位置付けでの認識はなかったため、参加しておりませんでした。不参加となることでご不安やご迷惑をおかけし、誠に申し訳ございませんでした。なお、今回の図面配布については、これまでのように資料を配布するのみで説明を伴わない形よりも、配布する際には一緒に補足の説明を行いたいといった法人の希望もあり、懇談会の一部を使って配布する機会を作っていただきました。そのため、今回お示した図面案（9月配布分）に対してご意見をいただき、法人の方で検討を行ったうえで、改めて説明会を開催することを検討しており、その際には、開催案内も配布したうえで市としても参加しますので、よろしくお願い致します。

24

園庭の整備案を複数案提示いただけるように聞いていましたが、なぜ今回の案は一つだけなのでしょうか。複数案あれば保護者の方も検討しやすいと思います。

法人： 実際に2社より園庭整備案をいただき、先生方とも協議をしながら現状の案を提示しています。
これには、2案提示した際に保護者意見も分かれることや、意見を言える人も言えない人もいる中で、最終的には三者協議会で保護者の方に責任や負担をかけしてしまうことになるため、法人側でしっかりと検討を行い、1案として良いものを出させていただいたということがあります。更には、実際にここで保育をしていく先生方がやりたいことを実現できるような園庭にしていきたい、これまでもここで子ども達と関わってきた先生方が築き上げてきたものを更にいい方向にしたいと思っているため、この様にさせて頂いています。

奈良市： 園庭整備案を一つにして示すことに変更した事情を説明せず、一つの図面案を配布してしまったことで混乱を生じさせてしまい申し訳ございません。
元々2つの案を検討をいただきながらも、一つの案としてお示しいただいたということで、この整備案に実際に現場の先生や元々鶴舞こども園におられた先生方の意見も踏まえられているのであれば、前におられた先生方の意見もしっかりと伝えていく方が理解もしやすいと思います。

25

三者協議会について、一般の保護者も自由参加もしくは傍聴できるようにしたらいかがですか。

奈良市： 実際に右京保育園で実施した三者協議会でも、傍聴は可能としていました。このことから、希望があれば傍聴はしていただけるものと考えていますが、全ての方が発言することで、協議会自体の進行にも影響が出るおそれがあることから、協議会の中で発言するのは保護者代表者に限っていました。

26

卒園式をゆかりのある古い園舎で実施していただきたいです。

法人： 卒園式については新園舎で実施することになりますが、旧園舎にも30年近くの思い出がいっぱい詰まっていると思いますので、「今までありがとう」という感謝を込めたお別れ会のようなものを実施したいと考えています。

その他

- ・ジャングラミングや築山はとても楽しそうです
- ・たくさん体を動かし、のびのびと遊ぶ事ができ、社会性なども学べるとてもいい遊具だと思います
- ・新しい園舎と園庭が出来上がるのを楽しみにしています
- ・駐車場が広くなり、園庭が小さくなるようで残念です
- ・駐輪場や駐車場から園舎までの動線のイメージがあれば見たいです
- ・新しい園庭がとても楽しそうでワクワクしています
- ・早く園庭で思いっきり遊ばせてあげて欲しいです
- ・説明会の資料は、数日前には配布してください

鶴舞やまこども園に関する問合せ

[法人担当] 社会福祉法人郡山双葉会 (担当) 生田
鶴舞やまこども園 (担当) 浅野 ・ 生田
[TEL] 0742-45-4753
[HP] <https://koryamafutabakai.or.jp/introduction/tsurumai-yamatokodomoen/>



民間移管に関する問合せ

[担当課] 奈良市 子ども政策課 (市役所中央棟3階) (担当) 山本 ・ 高野
[TEL] 0742-34-4792 [FAX] 0742-34-4798
[MAIL] kodomoseisaku@city.nara.lg.jp
[HP] <https://www.city.nara.lg.jp/site/youho-saihen/9811.html>

